

# 日本音楽知覚認知学会講演題名

Effects of . . .

知覚 太郎, 認知 花子

Taro Chikaku & Hanako Ninchi

△△大学 XX 学部

△△ University

◆◆@△△.ac.jp, ■■@△△.ac.jp (3名以上の場合, 筆頭のみでもよい)

内容梗概: 内容梗概を 250 字~300 字で記述する。引用文献や固有名詞が出てこないように配慮して、実験の目的、分析、結果を簡潔に記述する。内容梗概のフォントサイズは 10 pt とする。内容梗概から一行あけて **Keywords**、一行あけて本文を記述する。**Keywords** (重要語句) は 3~5 個記述する。和文題名は 14 pt、著者和名は 12 pt、英文題名、著者英名、所属英名、連絡先メールアドレスはいずれも 10 pt とする。

**Keywords:** Music, Perception, Cognition, Psychology, Guideline

## 1 はじめに

本ファイルは日本音楽知覚認知学会研究発表会資料の Microsoft Word (2016) 版標準テンプレートである。その他の環境で原稿を作成することは問題ないが、可能な限りこのテンプレートに沿って原稿を作成することが望まれる。原稿は 6 ページ以内で、偶数ページになるようにする。原稿の上下左右には最低 20mm の余白を空ける。以下、本ファイルに関する決まりについて述べる。なお、ポスター発表の原稿は原則 2 ページ (日本語あるいは英語の要旨を左頁に、図表と謝辞を右頁に書く) とするが、2 ページ以上書きたい場合は最大 6 ページとする。

## 2 テンプレートの説明

### 2.1 原稿のスタイルについて

このテンプレートを用いて作成される原稿のスタイルは、タイトル、著者、連絡先、所属、内容梗概、**Keywords** までを 1 段組とし、本文は 22 文字×45 行の 2 段組とする。文章中の各部のフォントサイズを Table 1 に示す。また、使用フォントの一覧を Table 2 に示す。なお、英数字は全て半角とする。

本ファイルを作成する際には、「本文」、「見出し 1」、「見出し 2」等の中でフォントを設定し、該当箇所これらを反映させている。

### 2.2 図表について

図表には、Fig. 1、Fig. 2、Table 1、Table 2 のように通し番号を割り当て、必ず図表の説明文をつける。

図表の説明文は英語表記を推奨するが、日本語でもかまわない。図の説明文は図の下に、表の説明文は表の上に記載する。説明文のフォントサイズは 10.5 pt とし、表内の文字のフォントサイズも原則として 10.5 pt とする。説明文と図表内で使用する言語は、英語あるいは日本語のどちらかに統一する。また、原稿内で英日の説明文が混在しないようにする。なお、図表は天地にまとめる、あるいは、その図表が参照されるサブセクションの最後に挿入するなど、見やすく配置することを心がける。また、大きい図表については、その部分のみ 1 段組として挿入する。

Table 1 Size of fonts used in this template

文章の種類	フォントサイズ
タイトル	14pt
英文タイトル	10pt
著者和名	12pt
著者英名	10pt
所属和名	12pt
所属英名	10pt
著者連絡先メールアドレス	10pt
内容梗概	10pt
<b>Keywords</b>	10pt
セクション (見出し 1)	12pt
サブセクション (見出し 2) ※謝辞、参考文献も同様	10.5pt
本文	10.5pt
図表のタイトル	10.5pt
謝辞および参考文献本文	10.5pt

Table 2 Fonts used in this template

	日本語	英数字
タイトル	MS 明朝	Times New Roman
セクション (見出し 1)	MS ゴシック	Arial
サブセクション (見出し 2) ※謝辞、参考文献も同様		
それ以外	MS 明朝	Times New Roman

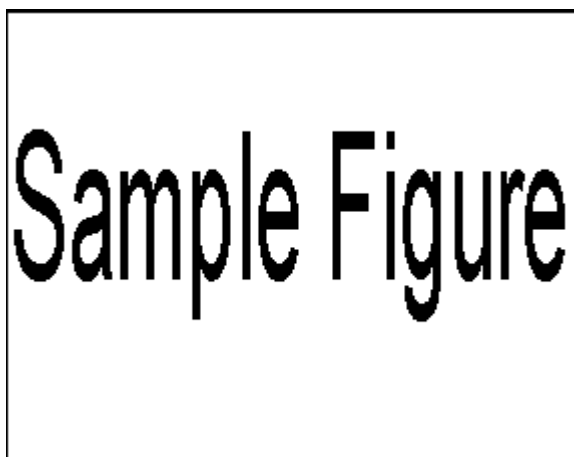


Fig. 1 Sample figure

カラーの図表を提出することは差し支えないが、資料はモノクロで印刷されるため、モノクロ印刷の上でも十分判別可能であることを確認すること。また、図の解像度が印刷に十分耐えうることを確認すること (300 dpi 以上を確保することを推奨する)。

### 2.3 謝辞について

必要に応じて、本文の最後、参考文献の前に謝辞を挿入する。フォントサイズ等は Table 1 および Table 2 の「謝辞」欄を参照して記載する。

### 2.4 参考文献について

参考文献のフォントサイズは本文と同様に 10.5 pt である。正しく引用するのに必要な情報は記載すること。著者が 3 名以上いる場合は、第一著者のみ記載し、「他」、「et al.」を入れて省略してもよい。

参考文献リストは、本文の最後にまとめ、著者名のアルファベット順に並べる。参考文献リストは、雑誌の場合は、著者名、刊行年次、表題、雑誌名、巻、ページ、著書の場合は、著者名、刊行年次、著書名、出版社、著書の分担執筆の場合は、著者名、刊行年次、表題、編者名、著書名 (ページ)、出版社 (出版社が外国の場合は所在地を含む) とする。詳細は、APA *Publication Manual* (American Psychological

Association, 2001) の該当箇所に準拠する。なお、日本音楽知覚認知学会の投稿規定が学会 Web ページで公開されているので、適宜参照すること。

[http://jsmpc.org/wp-content/uploads/2019/03/JSMPC\\_JournalRuleJ\\_190327.pdf](http://jsmpc.org/wp-content/uploads/2019/03/JSMPC_JournalRuleJ_190327.pdf)

### 3 おわりに

原稿はページ番号をつけずに、PDF ファイルに変換して提出する。以上がわかりやすい原稿づくりの参考になれば幸いである。

#### 謝辞

謝辞のタイトルは、見出し 2 (サブセクション) の追加を行い、章節項の番号はつけない。本文と同様にフォントサイズを 10.5 pt として記述する。

#### 参考文献

American Psychological Association. (2001). *Publication manual of the American Psychological Association* (5th ed.). Washington, DC: Author.

荒川恵子, 水浪田鶴, 桑野園子, 難波精一郎

(1995). 音楽演奏の聴取最適レベルを決定する要因. *音楽知覚認知研究*, 1, 33-42.

Deutsch, D. (1999). Grouping mechanisms in music. In D. Deutsch (Ed.), *The psychology of music* (2nd ed., pp. 299-348). New York: Academic Press.

村尾忠廣 (1987). 楽曲分析における認知. 波多野 誼余夫編, *音楽と認知* (pp. 1-40). 東京大学出版会.

Oura, Y. & Hatano, G. (2004). Parsing and memorizing tonal and modal melodies. *Japanese Psychological Research*, 46, 308-321.

梅本堯夫 (1966). *音楽心理学*. 誠信書房.